

熊本県にドクターヘリの導入を求める嘆願書

平成二十一年五月吉日

熊本県知事 蒲島郁夫 殿

熊本県ドクターヘリ導入推進協議会

代表理事 熊本大学侵襲制御医学 木下順弘

熊本県の救急医療体制は、有明、菊池、鹿本、熊本中央、阿蘇、山都、八代、水俣芦北、人吉球磨、天草の二次医療圏(計十箇所)に四十三の二次救急医療機関を指定し、比較的重症な救急患者の対応(二次救急医療)に当たっています。また、県内各地で発生した生命の危機に瀕する最重症の救急患者(いわゆる三次救急医療対象患者)は、救命救急センターである熊本赤十字病院、熊本医療センターと熊本大学医学部附属病院が県内全域から受け入れて対応することになっています(熊本県地域医療計画における熊本県救急医療体制図より)。熊本中央医療圏以外の9箇所の二次医療圏において発生した三次救急患者については、いかに短時間にかつ安全に、上記三医療機関等へ搬送するかが大きな問題であります。

熊本県内の交通事情から、救急車による陸路搬送では熊本市内へ到着するまでに1時間以上を要する地域は広大であります。救急患者の治療は早期に開始するほど良い結果となることは当然であり、長時間の救急車搬送に代わる、より迅速な搬送手段が求められてきました。そこで、熊本県では平成十三年より消防防災ヘリ「ひばり」を熊本空港に隣接する熊本県消防防災航空センターにおき、救急患者のヘリ搬送に当たらせています。「ひばり」による救急患者のヘリ搬送件数は年々増加し、平成二十年には二百四十六件に達し、全運航件数二百六十九件の九十一%が救急搬送に向けられました。今後、要請件数がさらに増加する予想されます。しかしながら、防災消防ヘリは本来、救助、消火、救難、災害と多目的であり、必ずしも救急患者搬送に特化したものではありません。搬送には、必ず救急救命士が搭乗することになってはいますが、医師でない者の医療行為にはおのずと限界があります。

国会では平成十九年六月に、「救急医療用ヘリコプター(以下ドクターヘリという)を用いた救急医療の確保に関する特別措置法」が成立し、全国各地でドクターヘリ導入の機運が高まっています。国内ではこれまでに十八機のドクターヘリが導入され、九州では福岡県と長崎県がドクターヘリを保有しています。すでに導入の予定を決めている地域も多く、今後加速度的に導入が進むと予測されます。ドクターヘリは救急患者の搬送に特化したヘリで、病院の敷地内から離発着し、救急医、救急看護師が搭乗することにより、救急現場到着後すぐに救急医療が開始される点において、より高度な救急医療が提供され、救命率の向上が期待されます。全国のドクターヘリ活動実績をみても、その有効性は明らかです。熊本県民のドクターヘリに関する関心は高く、多くの署名が寄せられていることは、ドクターヘリ導入が県民の切なる願いであることをよく表わしていると言えます。ドクターヘリの代替として活躍してきた防災ヘリの一機体制では運航件数自体にもすでに限界が見えてきました。このような現状に鑑み、熊本県においてドクターヘリ事業を早期に実現するよう知事の英断を切望いたします。

要望事項

- 一．「医療法」第三十条の三第一項基本方針並びに同条四の第一項医療計画、「救急医療用ヘリコプターを用いた救急医療の確保に関する特別措置法」第五条を受け、医療用ヘリコプターを利用する救急医療体制の課題を審議するための委員会を県の主導により設置。
- 二．上記委員会には、救急医療機関、消防機関、行政の担当者、その他関係者が参画し、熊本県における重症救急患者の広域搬送のためのドクターヘリ導入の促進を検討。
- 三．熊本県メディカルコントロール協議会において、検証してきた防災ヘリによる救急搬送経験を活かしつつ、ドクターヘリ導入後は防災ヘリとドクターヘリとの協力と業務分担により、救急業務と防災業務を十分に遂行できる方策を検討。
- 四．県内の重症救急患者がヘリなどを用いた広域搬送により、熊本市内の救命救急センターや中核病院へ集中する場合の受け入れ病院の負担増の対策を検討。
- 五．かばしま知事のマニフェスト『くまもと再生4ヵ年計画』の中にある、「緊急時の対応・過疎地の医師不足への対策として、移動診療所であるドクターヘリの導入を目指します。」の公約早期実現。

熊本県ドクターヘリ導入推進協議会 役員一同(敬称略)

代表理事	木下順弘	熊本大学侵襲制御医学 教授
副代表理事	東 大弼	熊本赤十字病院 院長
理事	荒尾慎治	阿蘇温泉病院 救急部長
理事	植村正三郎	天草地域医療センター 院長
理事	大嶋壽海	荒尾市民病院 病院事業管理者
理事	川口英敏	川口病院 副院長
理事	木村正美	人吉総合病院 院長
理事	後藤平明	球磨郡公立多良木病院 院長
理事	島田信也	八代総合病院 院長
理事	須古博信	済生会熊本病院 院長
理事	高木克公	聖ヶ塔病院 院長代行
理事	高橋睦正	宇賀岳病院 放射線科部長
理事	田代尊久	熊本 ACLS 協会理事長
理事	西 勝英	桜十字病院 院長
理事	橋本洋一郎	熊本市立熊本市市民病院 神経内科部長
理事	福島英生	玉名中央病院 副院長
理事	福田 稔	福田病院 理事長
理事	保利哲也	保利病院 院長
理事	森岡 亨	高野病院 麻酔科部長
理事	森下伊津夫	熊本総合医療福祉学院
理事	米満弘之	熊本機能病院 理事長
理事	柳下芳寛	熊本南病院 院長
監事	鶴田克明	鶴田病院 院長
顧問	小川道雄	貝塚市立病院 院長
顧問	小濱啓次	川崎医療福祉大学 教授

賛同者(敬称略)

市関係

熊本市

八代市 市長 坂田 孝志

人吉市 市長 田中 信孝

水俣市

玉名市 市長 島津 勇典

天草市 市長 安田 公寛

山鹿市 市長 中嶋 憲正

菊池市 市長 福村 三男

宇土市 市長 田口 信夫

上天草市市長 川端 祐樹

宇城市 市長 阿曾田 清

合志市 市長 大住 清昭

富合合併特例区区长 村崎 秀

町村関係

城南町

美里町 町長 長嶺 興也

玉東町 町長 前田 移津行

長洲町 町長 橋本 孝明

南小国町町長 河津 修司

小国町 町長 北里 耕亮

高森町 町長 藤本 正一

御船町

嘉島町 町長 荒木 泰臣

益城町

甲佐町 町長 奥名 克美

山都町 町長 甲斐 利幸

芦北町 町長 竹崎 一成

津奈木町

錦町 町長 森本 完一

あさぎり町町長 愛甲 一典

多良木町町長 松本 照彦

湯前町 町長 鶴田 正巳

苓北町

和水町

産山村 村長 佐藤 敬助

南阿蘇村村長 今村 輝昭

西原村 村長 加藤 義明

水上村 村長 成尾 政紀

相良村 村長 徳田 正臣

五木村 村長 和田 拓也

山江村 村長 内山 慶治

球磨村 村長 柳詰 恒雄

郡市医師会

天草郡市医師会会長 酒井 保之

宇土郡市医師会会長 石垣 孫照

阿蘇郡市医師会

荒尾市医師会会長 高橋 洋

消防本部

天草広域連合消防本部消防長 園田 長男

水俣芦北広域消防本部消防長 一明 司

有明広域消防本部

菊池広域連合消防本部

高遊原南消防本部消防長 内山 丸雄

阿蘇広域消防本部消防長 松永 宣男

八代広域消防本部

上球磨消防本部消防長 村山 幸典

上益城消防本部消防長 木戸内 憲明

人吉下球磨消防本部

山鹿植木広域消防本部消防長 末松 正博

宇城広域消防本部

以上